

「予防精神医学」誌発刊によせて

日本精神保健・予防学会理事長
水野雅文

日本精神保健・予防学会雑誌の刊行を祝し、理事長としてご挨拶申し上げます。

当学会は1996年の設立以来、本年11月12日に第20回大会を迎えることができました。この間の学会活動には様々な困難もありましたが、会員も次第に増え10月末時点で399名の会員にご所属いただいております。この20年の間に、精神疾患の予防は国内外で大きなトピックスとなり、精神医療従事者の間では広く認識されるようになりました。これも小椋力先生、岡崎祐士先生をはじめとする諸先生の慧眼が、時宜を得たものであり、臨床現場でその必要性を強く感じた若手の活躍の場が維持できた賜物と考えます。

学会であるからには、自らの情報発信の場として学会誌を持ちたいというのは当然の願いです。しかし雑誌の創刊には資金と、絶え間ない発進力の維持が欠かせません。未だ小規模な当学会にとって、電子媒体による刊行は資金面の解決になりました。加えて、早期介入や予防のテーマに長年に亘って取り組む仲間がいることや20回を迎えた年次大会の存在は、継続性をしっかりと担保するものです。

予防・早期介入分野の国際学会であるIEPA Early Intervention in Mental Health Inc.は、2016年の第10回ミラノ大会から、これまでの統合失調症モデル路線を遠ざけ、積極的に精神保健、精神医療分野全般の様々な診断横断的なアプローチを仕掛けるようになりました。これは統合失調症や精神病についての研究室レベルでの活動を脱皮し、地域の隅々にまで本気で早期介入を普及させていくという決意の表れです。特に先進諸国における少子高齢化は深刻であり、数少ない若年者の未来を考えると、精神保健の中で真っ先に成すべきは精神疾患の予防であり、早期介入なのだと思います。本誌を通じて、わが国の精神医療保健従事者が予防や早期介入に関する最新の情報を共有し、刺激し合い、発展の基盤を築けることを期待しています。

本誌の刊行に際しては、編集委員長をお引き受け下さった松本和紀先生はじめ、当学会で活躍中の若手の諸先生に数々の役割を担っていただいています。既存の学会とはひと味違った盛り上がりを見せてくれるものと期待しています。学会ホームページをご担当頂いているトリョウビジネスサービス株式会社様、特にご担当の野口学様はじめ関係各位のみなさまのご尽力にも心より御礼申し上げます。

皆さまからのご投稿、ご寄稿をお楽しみにしております。